

2025/03/18

原油先物WTIと金の高騰は続く。

ホルムズ海峡封鎖ならWTIは100ドルを超え、金は安全資産として4000ドルを突破するという見方もある。

アメリカはウクライナから妥協を引き出し都合の良い停戦合意を引き出した。

レアアースの獲得、軍事支援停止による歳出削減が主な成果だ。

ウクライナが望んでいたものはアメリカからの軍事情報提供の再開であり今回の停戦期間を利用し体制を立て直し領土奪還へ動くであろう。

アメリカとは異なりヨーロッパが主張するのはウクライナへの安全保障の提供であり、これは隣国に敵国が駐留するということでプーチンが案を受け入れるわけがない。

またクルスクでの領土奪還も完了しておらず、インフレで疲弊した経済状況において犠牲に見合った戦果を国内に示す形で停戦に持っていかなければならない。

今停戦が実現するか否かはロシア次第になっており、もし停戦案を拒否すればヨーロッパを始め国際的な経済・金融制裁網は強化される。

原油を始めとするエネルギー価格を押し上げることとなるであろう。

また中東においても権力の空白が生まれイスラエルがフリーハンドで攻勢を強めていたところでイランが支援するフシ派のアメリカ軍への大規模な攻撃が起こり、アメリカ・イスラエル対イランの緊張が高まっている。

イランの最高指導者ハメネイ氏は対米強硬派であり、両者が着地点を見つけるのは困難である。

中東での対立が激化し、アメリカの制裁の強化でイランによるホルムズ海峽封鎖も現実味を帯びてきた。

中国の不動産不況の根本的な解決策が打ち出されず、対中輸出の減少も響き、ヨーロッパの経済エンジンであるドイツの自動車産業は依然苦境に陥っている。

アメリカも政策不透明性の高まりにより設備投資は抑えられ、GDPの6割を占める個人消費に減速感が見られてきた。

世界的な景気減速で原油需要は低下するが、ウクライナと中東情勢は悪化の一途をたどる。

原油の底値は65ドルほどで今後70-85ドル近辺で推移するであろうが、紅海封鎖となれば100ドルを優に超えてくる。

景気の不透明感の高まりと安全保障環境の悪化により安全資産である金も4000ドルを突破してくるのではという見方もある。